

平成30年度

名古屋大学大学院医学系研究科博士課程（後期課程）

# 学生募集要項

[一般選抜・社会人特別選抜]

【看護学専攻】

【医療技術学専攻】

【リハビリテーション療法学専攻】

名古屋大学大学院  
医学系研究科

## アドミッションポリシー

名古屋大学大学院医学系研究科（保健学）博士課程は、豊かな人間性、高い倫理性、科学的論理性を備え、創造力に富む保健学研究者・高度専門医療者を養成することを教育目標としています。

この目標に相応しい次のような資質を備えた学生を求めます。

- ①人間に対する共感と深い洞察力を持つ。
- ②知的好奇心旺盛で科学的探究心に富んでいる。
- ③健康問題の解決に向けて、多面的にアプローチする意欲を持つ。
- ④協調性があり、国際的に活躍する意欲がある。
- ⑤独創力を備え、新たな分野を開拓する気概を持つ。

# 目 次

平成30年度 大学院医学系研究科博士課程（後期課程）

看護学専攻・医療技術学専攻・リハビリテーション療法学専攻

学生募集要項

1. 募集人員	1
2. 教育研究分野	1
3. 出願資格	1
4. 出願手続	2
5. 入学者選抜方法	4
6. 学力試験日時及び試験科目	4
7. 合格者発表	4
8. 入学手続等	5
9. 出願資格認定	5
10. 個人情報保護について	6

看護学専攻・医療技術学専攻・リハビリテーション療法学専攻概要

1. 目 的	6
2. 教育課程の概要と特色	7
3. 各専攻の概要	8
4. 専任教員一覧	11

試験場案内略図	17
---------	----



平成30年度 名古屋大学大学院医学系研究科博士課程（後期課程）  
看護学専攻・医療技術学専攻・リハビリテーション療法学専攻  
**学生募集要項**  
〔一般選抜・社会人特別選抜〕

## 1. 募集人員

専攻	募集人員
看護学専攻	6名 ※
医療技術学専攻	7名 ※
リハビリテーション療法学専攻	4名 ※

※社会人特別選抜による若干名を含む。

## 2. 教育研究分野

専攻	分野
看護学専攻	基礎・臨床看護学分野，健康発達看護学分野
医療技術学専攻	医用量子科学分野，病態解析学分野
リハビリテーション療法学専攻	理学療法学分野，作業療法学分野

※教育研究分野の内容については、6ページ以降の「看護学専攻・医療技術学専攻・リハビリテーション療法学専攻概要」を参照してください。

## 3. 出願資格

### 〔一般選抜〕

次の各号のいずれかに該当する者としてします。

- ①修士の学位又は専門職学位を授与された者及び平成30年3月31日までに修了見込みの者
- ②外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月31日までに取得見込みの者
- ③外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月31日までに授与される見込みの者
- ④我が国において、外国に大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月31日までに授与される見込みの者
- ⑤国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び平成30年3月31日までに授与される見込みの者
- ⑥外国の学校、上記資格④の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、博士論文研究基礎力審査に相当するものに合格した者及び平成30年3月31日までに合格する見込みの者で、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- ⑦文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）  
「大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者」

⑧本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成30年3月31日までに24歳に達する者  
 一般選抜の出願者の内、学業を継続する上で困難な事由が生じた場合は、社会人として履修が可能になることもあるので、予定指導教員と連絡を取り、相談すること。

**[社会人特別選抜]**

上記の出願資格のいずれかに該当する者で、平成30年3月31日までに医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等に所属し、入学後もその身分を継続する者。ただし、上記①から⑤のいずれかに該当する者は実務経験を要しない。

なお、上記⑥、⑦及び⑧のいずれかに該当する者の実務経験は、次のとおりとする。

・上記⑥、⑦の出願資格のいずれかに該当する者は、平成30年3月31日までに医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において専門的な実務経験（看護学専攻は2年以上、医療技術学専攻・リハビリテーション療法学専攻は1年以上）を要する。

・上記⑧の出願資格に該当する者で、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校専門課程又は各種学校を修了し、又は外国において、学校教育における14年の課程を修了した後、平成30年3月31日までに医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において7年以上（通算可）、15年の課程を修了した者は6年以上（通算可）、大学を卒業した者は5年以上（通算可）の専門的な実務経験を有し、入学後もその身分を継続する者。

**\*実務経験等については、志望する教育研究分野の教員に直接問い合わせてください。  
 (「専任教員一覧」(11ページ以降)を参照のこと。)**

※出願資格⑦⑧により出願を希望する者は、出願前に出願資格の認定を受けてください。  
 (5ページ「9. 出願資格認定」を参照のこと)

## 4. 出願手続

(1)出願書類等

① 入学志願票	本研究科所定の用紙
② 受験票, 写真票	本研究科所定の用紙 写真票に写真(縦4cm×横3cm, 正面・上半身・無帽・無背景で出願前3か月以内に撮影したもの)を貼付してください。
③ 成績証明書	ア. 出身大学院研究科長等が作成し、厳封したもの。 イ. 出願資格⑦及び⑧の者は不要。
④ 修士課程修了(見込み)証明書等	ア. 出身大学院研究科長等が作成したもの。 イ. 出願資格⑦及び⑧の者は、入学試験資格審査結果(写)
⑤ 修士の学位論文等	ア. 修士学位又は専門職学位を有する者は、修士論文の写し1部及びその要旨1部。要旨については1,600字程度でA4判用紙2枚(様式随意)にまとめてください。 イ. 修士学位又は専門職学位を取得する見込みの者は、研究経過報告書(研究計画及び修士論文の進捗状況)を3,000字程度A4判用紙4枚(様式随意)にまとめてください。 ウ. 出願資格⑦及び⑧の者は不要。
⑥ 志願理由書	本研究科所定の用紙
⑦ 研究計画書	研究の課題, 動機, 目的, 方法について, A4判用紙2枚(様式随意)にまとめてください。
⑧ 研究業績調書	本研究科所定の用紙
⑨ 検定料	30,000円 検定料は郵便局において30,000円の普通為替を作成し、「受取人指定欄」は記入しないでください。 (注) 1. 納入済みの検定料は、返還しません。

	2. 本学大学院博士課程（前期課程）を修了し、引き続き博士課程（後期課程）に進学する者及び国費外国人留学生からは、検定料を徴収しません。なお、他大学大学院から受験する国費外国人留学生は「国費外国人留学生証明書」を提出すること。
⑩ 領収証書, 領収証書（控）	本研究科所定の用紙
⑪ 受験票送付用封筒	本研究科所定の封筒に志願者の住所、氏名、郵便番号を明記し、定形速達料金の切手（362円分）を貼ったもの。（海外の場合は返信に必要な郵便料金の国際返信切手券（IRC）を同封すること。）
⑫ あて名票	本研究科所定の用紙に志願者の住所、氏名、郵便番号を明記してください。
⑬ パスポートコピー等 [日本国籍を有しない者のみ。 ただし、日本国永住許可を得ている者は、不要。]	パスポートのコピー（顔写真のあるページ） なお、既に日本国内に居住している者は以下のいずれかも提出すること。 ア. 住民票記載事項証明書（在留資格、在留期間の記載されたもの。） イ. 在留カード又は外国人登録証明書のコピー（両面）
⑭ 在職期間証明書 [社会人特別選抜による出願者のみ]	在職時の職名、勤務期間を証明できる書類（様式随意）。
⑮ 就学承認書 [社会人特別選抜による出願者のみ]	本研究科所定の用紙により、所属機関の長が発行したもの。 ※入学手続き時まで提出すること。期日内に提出されない場合は、入学を認めない場合がある。

※書類は、日本語又は英語で作成するものとし、それ以外の言語で作成されている場合は、日本語又は英語の訳文を提出すること。

## (2)出願期間

平成29年7月11日（火）から平成29年7月14日（金）まで

※期間内必着（14日は17時まで）のこと。出願期間を過ぎて届いた願書は受理しませんので郵便事情に十分考慮してください。

## (3)出願書類等の提出方法・提出先

出願書類等を本研究科所定の封筒に入れ、必ず**書留・速達郵便**で「(2)出願期間」内に必着するように送付してください。

### [提出先]

〒461-8673 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号

名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科 大幸地区事務統括課教務学生係

(TEL 052-719-1598, 1518, 1521)

## (4)注意事項

- ①出願しようとする者は、必ず事前に志望する教育研究分野の教員と今後の研究内容について相談してください。（「専任教員一覧」（11ページ以降）を参照のこと）。
- ②出願書類等の提出は郵送に限ります。
- ③改姓等により修了証明書等の氏名が異なっている場合は、戸籍抄本（外国籍の場合は、これに相当する書類）を添付してください。
- ④出願書類等に不備がある場合は、受理しないことがあります。
- ⑤出願書類受理後は、いかなる理由があっても書類の返却、記載事項の変更及び検定料の返還はしません。  
ただし、住所・電話番号に変更のあった場合には教務学生係まで連絡してください。
- ⑥出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学許可を取り消すことがあります。

- ⑦本研究科に出願する者のうち、障害のある者等で、受験上特別の配慮を必要とする場合は、出願期間前に教務学生係に申し出てください。
- ⑧試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後30分以内に限り、受験を認めます。
- ⑨受験票は、願書受付後発送しますが、平成29年8月15日（火）までに届かない場合は、教務学生係に問い合わせてください。

※不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。

◇ 名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科ホームページ

URL <http://www.met.nagoya-u.ac.jp/>

◇ 連絡窓口

名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科

大幸地区事務統括課教務学生係

TEL (052)719-1598, 1518, 1521

## 5. 入学者選抜方法

学力試験、口述試験及び提出された書類の審査結果を総合して判定します。ただし、看護学専攻においては、英語試験に最低基準点を設定しています。

## 6. 学力試験日時及び試験科目

### ◆看護学専攻、医療技術学専攻、リハビリテーション療法学専攻

試験日	試験科目	時間	試験場
平成29年	英語※	10:30～12:00	名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号
8月31日（木）	口述試験※※	13:30～	

※ 辞書の持込は不可です。

※※①修士論文あるいはこれまでの研究内容、および②これからの研究計画など、について発表し（約15分）、それをもとに質疑応答を行います。

## 7. 合格者発表

平成29年9月15日（金）正午、名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科玄関前に掲示するとともに、合格者には合格通知書及び入学手続書類等を郵送します。

なお、名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科ホームページにも合格発表のページを設けます。

<http://www.met.nagoya-u.ac.jp/>

電話等による合否の問い合わせには、一切応じません。



## 8. 入学手続等

### (1)入学手続日時

合格通知送付時に通知します。

### (2)授業料等学生納入金

①入学料 282,000円 [予定額]

②授業料 前期分267,900円 (年額 535,800円) [予定額]

なお、入学時または在学中に入学料・授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな入学料・授業料が適用されます。

(注)

①本学大学院博士課程（前期課程）を修了し、引き続き博士課程（後期課程）に進学する者からは、入学料は徴収しません。

②授業料は、前期及び後期に分けて、前期にあつては5月、後期にあつては10月に納入してください。

③授業料の納入方法は、「授業料代行納付制度」を利用してください。

④納入済みの入学料は返還しません。

⑤国費外国人留学生は入学料・授業料とも不要です。

### (3)提出書類等

合格通知書送付時に詳細を通知します。

## 9. 出願資格認定

出願資格⑦⑧により出願しようとする者は、次により出願資格の認定を受けてください。

(1)提出書類 ※提出書類は返還しません。

### A) 出願資格⑦により出願しようとする者

①出願資格認定申請書	本研究科所定の用紙
②成績証明書	出身大学の長等が作成し、厳封したもの。
③卒業証明書	出身大学の長等が作成したもの。
④研究歴証明書	在籍もしくは在籍した機関の長等が作成したもの。
⑤自己推薦書	本研究科所定の用紙
⑥研究業績調書	本研究科所定の用紙
⑦審査結果通知用返信封筒	長形3号の封筒に本人の住所、氏名、郵便番号を明記し82円切手を貼付したもの。 (海外の場合は返信に必要な郵便料金の国際返信切手券 (IRC) を同封すること。)

### B) 出願資格⑧により出願しようとする者

①出願資格認定申請書	本研究科所定の用紙
②最終学校成績証明書	出身学校長等が作成し、厳封したもの。
③最終学校卒業証明書	出身学校長等が作成したもの。
④在職期間証明書	技術的・専門的職業についての職歴を有する者で、その期間及び職務内容を明記し、機関の長等が作成したもの。
⑤自己推薦書	本研究科所定の用紙
⑥研究業績調書	本研究科所定の用紙

⑦出身学校の規定等	卒業要件（在学期間・授業科目・単位数）の記載されたもの及び卒業に必要な授業科目のシラバス等（授業内容が記載されたもの）。
⑧審査結果通知用返信封筒	長形3号の封筒に本人の住所、氏名、郵便番号を明記し82円切手を貼付したもの。（海外の場合は返信に必要な郵便料金の国際返信切手券（IRC）を同封すること。）

※ A) B) とともに改姓等により修了証明書等の氏名が異なっている場合は戸籍抄本（外国籍の場合は、これに相当する書類）を添付してください。

書類は、日本語又は英語で作成するものとし、それ以外の言語で作成されている場合は、日本語又は英語の訳文を提出すること。

## (2)提出期間

平成29年6月26日（月）から平成29年6月29日（木）

※期間内必着（29日は17時まで）のこと。

## (3)提出方法・提出先

①書留・速達郵便で「(2)提出期間」内に必着するように送付してください。

②封筒の表に「医学系研究科博士課程（後期課程）出願資格審査書類在中」と朱書きしてください。

[提出先]

〒461-8673 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号

名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科 大幸地区事務統括課教務学生係

## (4)結果通知

審査結果は、平成29年7月7日（金）に本人宛に発送します。

出願資格を認定された者は、出願手続を行ってください。

# 10. 個人情報保護について

住所・氏名・生年月日その他の個人情報は、入学者選抜、合格発表、入学手続及びこれらに付随する事項並びに入学後の学務業務における学籍・成績管理を行うためにのみ利用します。また、取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外に利用しません。

看護学専攻・医療技術学専攻・リハビリテーション療法学専攻

## 概 要

### I. 目 的

名古屋大学医学系研究科は、「医学及び保健学における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、医学及び保健学における学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成すること」を目的としている。

保健学部門における本大学院研究科では、上記目的を基に、以下のように人材育成と研究実践の推進により、将来の保健医療を担うリーダーとなりうる中核的人材を育成し、現代の保健医療の進歩に貢献することを設置目的とする。

- (1) 保健医療の高度専門知識と広い視野と高い倫理観をもち、現代保健医療の問題解決へ向けた研究開発マインドをもつ指導的・高度医療人の育成
- (2) 保健医療分野の研究・教育を担う研究・教育者の育成
- (3) ライフイノベーションを担う先進的保健医療研究と、生活の質（QOL）重視の患者家族支援（ケア）の研究実践の推進

## II. 教育課程の概要と特色

---

大学院教育の充実・高度化および研究実践の推進を図り、上記の設置目的を達成するために、現在の学部教育に併設された大学院教育から、大学院教育・研究を中心とする組織に体制強化することが必要である。

### 1) 大学院教育の充実・高度化による人材育成の強化

大学院教育プログラムの充実・高度化を図ることで、保健医療の高度化に対応する将来のリーダーとなりうる中核的人材育成に繋がる。

#### ① 指導的・高度医療専門職の育成

本学では、平成18年度よりがん看護専門看護師（CNS）養成課程を設置し、平成19年度からは文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」によりがん看護専門看護師、放射線治療専門技師、医学物理士の育成を行っている。平成22年度には小児専門看護師（CNS）養成課程を設置した。

それに加え、現代の保健医療に関する体系的教育カリキュラムの充実・高度化を図り、社会人大学院生を含めた各医療専門職の知識技能向上に資する。

#### ② 専攻・分野横断型の教育プログラムの充実

平成19年度より開始した本学独自の「トータルヘルスプランナー（THP）養成コース」（平成19年度文部科学省大学院 GP 採択）のように、専攻・分野横断型の教育プログラムにより、多職種連携によるチーム医療推進を視野に入れた「専攻横断型の包括的医療専門職」の育成強化を図る。

また、平成22年度より導入した基礎的な研究手法について実習する「基礎医科学実習科目」のように、共通して習得すべき基礎的知識・技能について、専攻横断型の共通教育プログラムの充実を図る。

#### ③ 研究開発マインドを持った人材の育成

下記の保健医療研究の推進とも相まって、現代保健医療の問題解決へ向けた研究開発マインドをもつ人材育成を図る。研究開発能力の基本を育成することで、現代の保健医療の諸課題に対して、研究的視点で問題解決に挑戦し、21世紀の新しい保健医療を開拓する指導的・中核的医療人の育成に繋がる。

#### ④ 国際的視野を持つ人材の育成

急速に進展するグローバル化に対応する人材育成を図る組織的基盤を強化する。本学では、平成22年より韓国の延世大学との間で大学院レベルでの学術研究交流事業を開始した。これを端緒として国際交流プログラムの充実を図り、国際的視野を持つ人材育成を強化する。

#### ⑤ 医学部附属病院との連携強化による実践的人材育成の促進

平成22年度より附属病院看護部と共同で文部科学省「看護師の人材育成システムの確立」の取り組みを開始した。この機に附属病院医療スタッフと本学教員との連携を強め、病院医療職の本研究

科大学院へのアクセス向上・キャリアアップの機会提供につなげるとともに、臨床実践に密着した大学院教育プログラムの充実にもつなげる。

## 2) 保健医療関連の研究・教育者の輩出

博士後期課程の教育プログラムの強化により、博士号授与者の輩出を強化することは、保健学関連の研究・教育者の輩出に繋がり、保健学関連分野の継続発展の基盤強化となる。現代の医学医療の高度化や高齢社会の進展の中で、保健医療分野の研究開発の社会的要請は大きく、研究指導者育成の必要性は大きい。また、近年保健学系大学は急速に増加しており、大学の研究・教育を担う研究・教育者の育成および現職教員の研究・教育能力向上は、重要な課題である。今後さらに博士号授与者の輩出の強化に努め、将来を担う研究指導者の育成を図る。なお本研究科では、平成22年度より指導教員は学位審査の主査を兼ねない制度を導入するとともに、学位審査の予備審査会を各専攻共通して統一日に公開開催する等、学位授与の透明性・客観性を高める努力をしている。

## 3) 保健医療研究の推進

大学院講座化を実施し、研究推進を組織目標の一つとすることで、設置目的で述べたように「ライフイノベーションを担う先進的保健医療研究と、生活の質（QOL）重視の患者家族支援（ケア）の研究実践の推進」の強化を図る。保健医療分野の研究推進は、全国的に保健学系大学の歴史が浅い中で、強化すべき社会的責務も大きい。本学では、平成23年10月に「脳とこころの研究センター」を要項設置し、また、「ライフトピア地域支援研究センター」を立ち上げつつあり、医学系研究科をはじめ学内外との連携強化を図り、分野横断型の研究プロジェクトの構築により、保健医療研究の推進の強化を図る。

# Ⅲ. 各専攻の概要

## 1. 看護学専攻

近年の医学医療の進歩により、医療の高度化は著しく、一方で生活の質の向上を目指した患者家族中心の看護（ケア）の高まり、さらに長寿社会での健康増進、地域ケアの進展など、保健医療現場の変貌は著しい。多様化する保健医療の要請に応えるため、看護学としての看護技術やケアシステムの開発、看護手法の科学的追求など、科学的根拠のある看護学の確立にむけた教育研究の推進が求められている。看護学専攻では、現在の高度化する医療に対応し、高い倫理観を有して包括的な患者家族支援を展開できる指導的高度看護専門職の育成を目指すとともに、多様化する保健医療の要請に応える新しい看護学の創造に取り組む研究・教育者の育成を図ることを目的とする。

### 【基礎・臨床看護学分野】

本講座は、基礎看護学と臨床看護学の2つの柱で構成されており、これらの各領域において、心身に健康障害をきたした対象に必要な先端的看護技術とケアシステムの開発ならびにオリジナリティに富む健康障害援助理論の構築を行う。

基礎看護学領域では、変化する社会環境の中で様々なニーズに対応する看護を提供するために、主として、①卓越した看護アセスメント技術開発に関する課題、②保健医療に活かせる科学的・理論的根拠に基づく看護技術の開発・検証、③看護情報学や看護管理学などシステムの中でとらえる看護構成要素の明確化、④看護者の人格的成長や職業アイデンティティ確立の支援について

の課題，⑤看護の科学的・理論的根拠としての循環動態の変動や感染コントロールについて，実践に資するエビデンス創成と理論構築を目指し，研究・教育を行う。

臨床看護学領域では，臨床という特殊な場と地域社会における生活の場との連携を視野に入れ，健康障害をもつ人々に実践的な看護を提供するために，主として，①卓越したがん看護専門職の機能とシステム開発に寄与する課題，②周手術期・急性期・救急場面及びクリティカル状態にある患者の生命・生活と家族を支える援助方法に関する課題，③慢性的な健康障害をもつ人々及び治癒困難な状況にある人々と家族に対する援助方法に関する課題，④精神・心理的な健康障害をもつ人々と家族に対する包括的な看護を追求するための課題，⑤老年期の健康障害をもつ人々と家族に対する援助方法に関する課題について，研究・教育を行う。

### 【健康発達看護学分野】

本講座は発達看護学，地域・在宅看護学の2つの柱で構成されており，これらの各領域において，看護の対象の健康維持・増進・QOL向上を目的とした発達を支援するケアシステムの開発と理論の構築を行う。

発達看護学領域では，ライフサイクル各期において，さまざまな健康レベルにある個人・家族・集団の健康アセスメントやヘルスプロモーションの理論に基づいた看護を提供するために，主として，①子どもと家族の発達を支援する効果的な小児看護の役割モデルやケアシステムの開発に関する課題，②性と生殖にかかわる保健・周産期家族の健康管理・母子関係成立に関する援助に関する課題，③健やかな子どもを生ま育てるためのライフサイクル全般にわたる予防的看護支援モデルの開発に寄与する研究・教育を行う。

地域・在宅看護学領域では，地域に生きる人々の生活とQOL向上を目的とした支援を提供するために，主として，①特定集団や地域集団を対象にしたヘルスプロモーションの諸課題，②成人・老人期における生活習慣病予防を中心とした健康行動理論や指標の開発，③公衆衛生看護活動・地域／在宅看護概念と理論の開発について，寄与する研究・教育を行う。

## 2. 医療技術学専攻

近年の医療技術，医療機器の進歩は著しく，これらを活用した診断技術，病態解析技術，治療技術の高度化も顕著である。そして，遺伝子医療や移植・再生医療，人工臓器などの医療の革新的変化に対応する医療技術学面での新たな研究開発の重要性が益々増大している。医療技術学専攻では，これら医療の高度化をさらに推進する生体情報取得技術，診断技術，病態解析技術，治療技術などのライフイノベーションに繋がる専門技術の研究開発を目指す。また，医療技術人材の教育・育成においては，高度化する医療技術を医療現場で創造的に活用できる指導的な高度専門職業人の育成を図るとともに，先端医学医療に繋がる医療技術学分野の研究を推進する研究・教育者の育成を図る。

### 【医用量子科学分野】

医用量子科学分野の研究は，放射線，磁気，超音波などの媒体を用いて，生体情報を得るための基礎研究とその手法の開発を行い，それらの情報を有効且つ安全に用いるための診断支援システムやネットワークシステム，治療技術，放射線被ばく制御技術などの開発研究を行う。一方，本分野における教育領域としては，放射線や放射性同位体の物理学，化学，計測学の基礎から応用までに加えて，医用画像情報学，画像診断技術学，核医学検査技術学，放射線治療技術学，放射線安全管理技術学等が主体となる。これらの教育を行うことにより，既存の知識に加え，新し

い発想でシステムの開発を目指し、世界的な研究の一翼を担うことのできる研究者、広い見地から医療を見渡せる医療施設のリーダー及び高度な知識と技術を有する教育者の育成に努める。

#### 【病態解析学分野】

病態解析学分野の研究は、正常状態・病的状態の生体の諸現象を様々な検査手法を駆使して解析し生体機能及び各種病態の解明に資すること、並びに最新の基礎医学研究成果を取り入れ診療および疾病予防に有用な生体情報を得るための新たな技術を開発し応用することを目的としている。そのために本分野では、免疫学、微生物学、分析化学、生理学、血液学、病理学、疫学など様々な専門分野の研究者が、独自の手法を用いて先端的な研究を進めるとともに、従来の学問の枠組みを越えて協力した学際的な病態解析、検査技術開発に臨む。これらの研究を通じた教育活動として、先端医学につながる病態解析学研究を遂行する能力をもつ研究者の育成、及び指導者・教育者としての高度な専門知識・技術を有する人材の育成を図る。

### 3. リハビリテーション療法学専攻

リハビリテーション療法学（理学療法学及び作業療法学）は、従来の身体機能回復のみならず、疾患・外傷の初期段階から治療と機能回復、社会復帰を含めた、疾病管理・生活支援により患者家族の生活の質の向上を目指す総合医療分野として認識されてきている。近年では高齢社会の進展で、高齢者への早期からの予防的な疾病管理・生活援助を含めたリハビリテーション療法の確立も求められるなど、リハビリテーション療法の適用範囲は増大している。リハビリテーション療法学では、現代の高齢社会の中で患者家族の疾病管理・生活支援を推進するリハビリテーション療法を開発推進する高度の専門知識を有する指導的高度医療専門職の育成を図るとともに、新しいリハビリテーション療法学の分野を開拓創造する研究・教育者の育成を図ることを目的とする。

#### 【理学療法学分野】

理学療法学は、身体組織および機能の障害、あるいは能力低下を持ちながらも、質の高い人生を送るために不可欠なリハビリテーション医療に関する研究推進ならびに高度専門教育を行う。そのために、障害の原因となる病態や機能障害の発生機序を生理学的に解明する基礎研究とともに、障害の効果的回復や機能維持、更には疾病・障害の再発予防に関する臨床研究を積極的に推進し、質の高い理学療法の基盤を創造する。また、学内他専攻はもとより、他大学ならびに海外の学術・研究チームと積極的に交流し、国際的水準で研究推進ならびに後進の指導を行い得る人材の育成に努める。

#### 【作業療法学分野】

作業療法学講座は、人の身体、精神、成長発達および老化に関するほとんど全ての機能障害とその病態を対象とする研究・教育を行う。そして、様々な機能障害に対する作業療法介入の効果、能力や障害の評価、あるいは生活支援や社会適応の開発など、特化した視点から見た高度な作業療法学の研究と教育を目指す。同時に本講座は、作業療法の対象となる身体的および精神的疾患に関わる基礎的研究と創造的開発を推進し、指導的な立場で国内外の研究、学際的な研究に携わり、高度な専門知識と技術をもって後進の教育を行うことのできる人材の育成に努める。

# 専任教員一覧（後期課程）

平成29年6月1日現在

看護学専攻（メールによる問い合わせ先：@met.nagoya-u.ac.jp を続けてください。）

講座	研究領域	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
基礎看護学領域	基礎看護学領域	教授	オオ タ カツ マサ 太田 勝正 Tel 719-1921 Fax 719-1921 E-mail kota	臨床アセスメント看護学特講 臨床アセスメント看護学特講演習 基礎・臨床看護学特別研究	1.看護実践における情報倫理上の問題への取り組み 2.看護倫理に関する研究 3.緊急被ばく医療における看護職の役割に関する研究
		教授	フジ モト エツ コ 藤本 悦子 Tel 719-1568 Fax 719-1568 E-mail fujimoto	臨床アセスメント看護学特講 臨床アセスメント看護学特講演習 基礎・臨床看護学特別研究	1.看護技術の検証と開発 2.睡眠に関する研究 3.リンパ浮腫ケアに関する研究 4.組織再生を促すドレッシング材の開発
		教授	ホン ダ イク ミ 本田 育美 Tel 719-1922 E-mail ihonda	臨床アセスメント看護学特講 臨床アセスメント看護学特講演習 基礎・臨床看護学特別研究	1.慢性の病いをもつ人の健康行動（セルフマネジメントや疾病管理）に関する研究 2.高齢者のヘルスプロモーションに関する研究 3.看護師の臨床推論に関する研究
		教授	ヤマ ウチ トヨ アキ 山内 豊明 Tel 719-1565 Fax 719-1565 E-mail yamauchi	臨床アセスメント看護学特講 臨床アセスメント看護学特講演習 基礎・臨床看護学特別研究	1.看護実践におけるアセスメント、特にフィジカルアセスメントの理論構築と実証的研究 2.看護ケアについての評価システムならびにその指標の開発 3.医療専門職間の関係性ならびに相補性についての研究
		准教授	オオ シマ チ カ 大島 千佳 Tel 719-3101 Fax 719-3101 E-mail chika	臨床アセスメント看護学特講 臨床アセスメント看護学特講演習 基礎・臨床看護学特別研究	1.看護技術の検証と開発 2.睡眠に関する研究 3.血流およびリンパに関する研究
看護学臨床講座	看護学臨床講座	教授	アン ドウ ショウ ユ 安藤 詳子 Tel 719-1553 Fax 719-1553 E-mail ando	ホリスティックがん看護学特講 ホリスティックがん看護学特講演習 基礎・臨床看護学特別研究	1.がん性疼痛緩和に関する研究 2.終末期看護領域における研究 3.がん患者の症状マネジメントに関する研究
		准教授	サ トウ カズ キ 佐藤 一樹 Tel 719-1109 Fax 719-1109 E-mail satok	ホリスティックがん看護学特講 ホリスティックがん看護学特講演習 基礎・臨床看護学特別研究	1.終末期の医療の質とQOL評価に関する研究 2.緩和ケアの質評価に関する研究 3.がん患者のQOL評価に関する研究 4.緩和ケアの提供体制に関する研究
		教授	イケ マツ ユウ ユ 池松 裕子 Tel 719-1567 Fax 719-1567 E-mail ikematsu	臨床アセスメント看護学特講 臨床アセスメント看護学特講演習 基礎・臨床看護学特別研究	1.循環危機患者の自覚症状 2.クリティカルな状態の患者のQOL 3.発達障害のある看護学生の学習支援プログラム開発
		講師	ナカ ヤマ ナツキ 中山 奈津紀 Tel 719-1572 Tel 719-1572 E-mail nakayama	臨床アセスメント看護学特講 臨床アセスメント看護学特講演習	1.循環器疾患患者の生活支援に関する研究 2.周手術期におけるせん妄に関する研究 3.運動と血液循環に関する研究 4.シミュレーション教育に関する研究
		准教授	アオ イシ ケイ ユ 青石 恵子 Tel 719-1920 Fax 719-1920 E-mail keikoao	臨床アセスメント看護学特論 臨床アセスメント看護学特講演習 基礎・臨床看護学特別研究	1.発達障害に関する研究 2.自殺予防対策に関する研究 3.思春期・青年期のメンタルヘルスに関する研究 4.精神障害者の地域移行支援に関する研究
		准教授	フチ タ エツ コ 渚田 英津子 Tel 719-3112 E-mail fuchita	臨床アセスメント看護学特講 臨床アセスメント看護学特講演習 基礎・臨床看護学特別研究	1.認知症高齢者のケアに関する研究 2.認知症高齢者の介護者支援に関する研究 3.高齢者ケアの教育方法と評価に関する研究

講座	研究領域	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
健康学	発達看護学領域	教授	浅野 みどり Tel 719-3157 Fax 719-3157 E-mail midoria	小児家族発達看護学特講 小児家族発達看護学特講演習 健康発達看護学特別研究	1.Health care needs をもつ子どもと家族の看護 2.家族の価値観と強みを尊重した養育期・教育期家族への予防的ケア 3.子どもと家族の Well-being
		教授	入山 茂美 Tel 719-1574 Fax 719-1574 E-mail iriyama	小児家族発達看護学特講 小児家族発達看護学特講演習 健康発達看護学特別研究	1.産褥期の母乳育児に関する研究 2.産痛緩和ケアに関する研究 3.思春期の若者の性行動に関する研究
		教授	奈良間 美保 Tel 719-1566 Fax 719-1566 E-mail narama	小児家族看護学特講 小児家族発達看護学特講演習 健康発達看護学特別研究	1.子どもと家族中心のケア 2.在宅療養児と家族の支援開発
		教授	玉腰 浩司 Tel 719-1564 Fax 719-1564 E-mail tamako	小児家族発達看護学特講 小児家族発達看護学特講演習 健康発達看護学特別研究	1.生活習慣病に関する研究 2.母子保健に関する研究 3.婦人科疾患、周産期疾患に関する研究
		准教授	島 明子 Tel 719-1382 E-mail shima	小児家族発達看護学特講 小児家族発達看護学特講演習 健康発達看護学特別研究	1.女性のヘルスケアに関する研究 2.中高年女性の更年期症状のケアに関する研究 3.周産期ケアに関する研究
		准教授	高橋 由紀 Tel 719-1573 Fax 719-1573 E-mail yukitaka	小児家族発達看護学特講 小児家族発達看護学特講演習 健康発達看護学特別研究	1.母乳哺育に関する研究 2.Skin-to-Skin Contactに関する研究 3.母子愛着、産後うつに関する研究
	地域在宅看護学領域	教授	梶田 悦子 Tel 719-1569 Fax 719-1569 E-mail kajita	地域健康看護学特講 地域健康看護学特講演習 健康発達看護学特別研究	1.生活習慣病と生活要因に関する研究 2.根拠に基づいた地域保健対策の構築
		教授	榊原 久孝 Tel 719-1923 Fax 719-1923 E-mail sbara	地域健康看護学特講 地域健康看護学特講演習 健康発達看護学特別研究	1.生活習慣病の健康管理 2.職場の保健管理 3.物理的因子（振動）の生体影響
		准教授	渡井 いずみ Tel 719-3151 Fax 719-3151 E-mail izumiw	地域健康看護学特講 地域健康看護学特講演習 健康発達看護学特別研究	1.産業看護に関する研究 2.ワーク・ライフ・バランス支援 3.公衆衛生看護 4.がんと就労
		教授	林 登志雄 Tel 719-1924 Fax 719-1850 E-mail hayashi	地域健康看護学特講 地域健康看護学特講演習 健康発達看護学特別研究	1.訪問看護と在宅医療 2.終末期の医療と看護 3.細胞老化と動脈硬化症 4.高齢者糖尿病 - コホート研究から治療ガイドライン作成まで 5.遺伝性（家族性）高脂血症 6.アジア女性健康長寿研究
	教授	前川 厚子 Tel 719-3150 Fax 719-3150 E-mail maekawa	地域健康看護学特講 地域健康看護学特講演習 健康発達看護学特別研究	1.がん患者の QOL と教育に関する研究 2.創傷ケアと排泄マネジメントに関する研究 3.在宅療養者支援に関する研究	



## 医療技術学専攻 (メールによる問い合わせ先: @met.nagoya-u.ac.jp を続けてください。)

講座	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
医 用 量 子 科 学 講 座	教授	池田 充 Tel 719-1587 Fax 719-1587 E-mail mikeda	画像診断技術学特講 画像診断技術学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.被ばく線量と画質との関係に関する研究 2.医用画像の画質評価方法に関する研究
	教授	磯田 治夫 Tel 719-3154 E-mail isoda	画像診断技術学特講 画像診断技術学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.機能的磁気共鳴法 2.磁気共鳴流体力学 3.磁気共鳴を用いた心筋運動解析 4.凍結治療装置開発と凍結治療時画像モニター 5.磁気共鳴撮像技術・画像診断 6.神経系・頭頸部画像診断
	教授	今井 國治 Tel 719-3114 E-mail imai	医用画像情報学特講 医用画像情報学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.数理統計学及び情報理論に基づく医用画像の画質評価 2.薬剤学に基づくヨード系造影剤の物性解析
	教授	加藤 克彦 Tel 719-1590 Fax 719-1589 E-mail katokt	核医学検査技術学特講 核医学検査技術学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.ポジトロン核医学に関する研究 2.核医学画像診断 3.甲状腺機能亢進症の <sup>131</sup> I内用療法
	教授	島本 佳寿広 Tel 719-1562 E-mail simamoto	画像診断技術学特講 画像診断技術学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.乳腺画像診断 2.甲状腺超音波診断 3.診断精度に影響を及ぼす読影環境要因
	教授	古川 高子 Tel 719-1548 E-mail furukawa	基礎放射線科学特講 基礎放射線科学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.核医学診断・治療に係る放射性薬剤をはじめとする分子プローブの開発・評価に関する基礎研究
	教授	山本 誠一 Tel 719-1559 E-mail s-yama	放射線理工学特講 放射線理工学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.PET, SPECT, PET/MRI 一体型装置等の研究開発 2.分子イメージング機器の研究開発
	准教授	小口 宏 Tel 719-1581 Fax 719-1582 E-mail h_oguchi	放射線治療技術学特講 放射線治療技術学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.金属フィルタを用いた強度変調放射線治療 2.呼吸同期照射法 3.光子・電子の計測法 4.ポリマーゲル線量計
	准教授	小森 雅孝 Tel 719-1585 Fax 719-1586 E-mail komori	医用物理学特講 医用物理学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.放射線治療の線量分布評価 2.粒子線治療の照射野形成法の開発 3.粒子線治療の中性子被ばくの評価
	准教授	小山 修司 Tel 719-1595 E-mail koyama	基礎放射線科学特講 基礎放射線科学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.診断領域X線の計測 2.医学物理でのモンテカルロシミュレーションの応用 3.X線診断機器の開発 4.脳機能解析のMR撮像に関する研究
	准教授	砂口 尚輝 Tel 719-1554 E-mail sunaguchi	医用画像情報学特講 医用画像情報学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.放射光 X 線イメージング手法の開発 2.CT 再構成アルゴリズムの開発
	講師	川浦 稚代 Tel 719-3105 Fax 719-3105 E-mail kawaura	基礎放射線科学特講 基礎放射線科学特講演習 医用量子科学特別研究Ⅱ	1.子どもの医療被ばく評価 2.画質と線量の関係解明 3.放射線画像診断検査の最適化に関する研究

講座	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
病態解析学講座	教授	石川 哲也 Tel 719-1561 Fax 719-1561 E-mail ishikawa	環境病因解析学特講 環境病因解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. 難治性肝疾患の免疫学的病態解析・治療 2. B型肝炎ウイルスの生活環の可視化 3. 幹細胞技術の肝疾患治療への応用 4. 移植幹細胞の in vivo イメージング
	教授	川部 勤 Tel 719-1547 Fax 719-1547 E-mail kawabe	病因病態解析学特講 病因病態解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. CD40分子の機能解析 2. 病態生理に基づいたアレルギー検査法の開発 3. 呼吸器疾患の検査・診断法の開発
	教授	小嶋 哲人 Tel 719-3153 Fax 719-3153 E-mail kojima	分子病態解析学特講 分子病態解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. 血栓性素因の分子病態 2. 凝固異常症の遺伝子解析 3. Ryudcan の生体機能解析 4. アンチトロンビンレジスタンス病態解析
	教授	近藤 高明 Tel 719-1552 Fax 719-1552 E-mail taka	環境病因解析学特講 環境病因解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. 生体指標と生活習慣病との関連 2. コホート研究による生活習慣病発症リスクの評価 3. 臨床検査データの系年的変動の評価
	教授	長坂 徹郎 Tel 719-3152 Fax 719-3152 E-mail nagasaka	形態情報解析学特講 形態情報解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. 病理診断学 2. 婦人科病理 3. 造血器病理
	教授	永田 浩三 Tel 719-1546 Fax 719-1546 E-mail nagata	生体生理解析学特講 生体生理解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. 食塩感受性高血圧と心不全の病態解析 2. メタボリックシンドロームの病態解析 3. レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系とグルココルチコイドの研究 4. 酸化ストレスと炎症の研究
	教授	涌澤 伸哉 Tel 719-1558 E-mail wakusawa	病態化学解析学特講 病態化学解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. 薬物トランスポーター 2. 胆汁酸の生理・薬理 3. 鉄・銅の代謝異常症 4. 緑茶カテキンの生理・薬理
	准教授	上山 純 Tel 719-1341 Fax 719-1341 E-mail ueyama	病態化学解析学特講 病態化学解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. 尿中化学物質の網羅的分析による農薬類曝露マーカーの探索と分析法の開発
	准教授	川村 久美子 Tel 719-3116 Fax 719-3116 E-mail kumiko	病因病態解析学特講 病因病態解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. 病原細菌における薬剤耐性機構の解析 2. 病原細菌における消毒薬抵抗性の解析 3. 多剤耐性グラム陰性桿菌の迅速検出法の開発
	准教授	高木 明 Tel 719-1186 Fax 719-1186 E-mail atakagi	分子病態解析学特講 分子病態解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. アンチトロンビン抵抗性解析法の開発 2. トロンボモジュリン抵抗性解析法の開発 3. 血栓性素因の分子病態解析 4. 出血性素因の分子病態解析
	准教授	平山 正昭 Tel 719-1184 Fax 719-1184 E-mail hirasan	生体生理解析学特講 生体生理解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. パーキンソン病における非運動症状や酸化的ストレス測定による病態進展との関連 2. 飽和水素水の神経原性疾患への効果の解明 3. 脳磁図, 脳 MRI を用いた感覚異常の病態解明 4. 皮膚ガス, 汗を用いた血液中の薬物測定の試み 5. パーキンソン病患者の腸内フローラの解析と血液炎症反応
	准教授	川井 久美 Tel 719-1189 E-mail kawai93	形態情報解析学特講 形態情報解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. 甲状腺髄様癌モデルマウスの解析 2. ret 遺伝子を標的としたチロシンキナーゼ阻害薬の解析

講座	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
病態解析学講座	講師	マツ シマ ミヨ子 松島 充代子 Tel 719-1197 Fax 719-1197 E-mail matsu	病因病態解析学特講 病因病態解析学特講演習 病態解析学特別研究Ⅱ	1. CD40分子の機能解析 2. 生理活性物質による免疫修飾機構の解析 3. アレルギー検査法の開発

## リハビリテーション療法学専攻 (メールによる問い合わせ先: @met.nagoya-u.ac.jp を続けてください)

講座	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
理学療法学講座	教授	ウチ ヤマ ヤシ 靖 Tel 719-3155 Fax 719-3155 E-mail uchiyama	症候障害学特講 症候障害学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1. 姿勢・運動の制御と学習に関する研究 2. 症候障害学に関する研究 3. 神経系理学療法学に関する研究 4. 理学療法学教育に関する研究
	教授	カメ タカ サトシ 諭 Tel 719-1344 Fax 719-1344 E-mail kametaks	細胞組織形態学特講 細胞組織形態学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1. 骨格筋分化, 特に筋芽細胞の細胞融合過程の調節機構についての細胞生物学的解析 2. 神経系の遺伝性疾患発症の分子機構
	教授	スギ ウラ ヒデ シ 志 Tel 719-1364 Fax 719-1364 E-mail hsugiura	骨・関節機能障害学特講 骨・関節機能障害学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1. 骨軟部腫瘍切除後の機能評価とリハビリテーション 2. がん骨転移の病態とがんリハビリテーション 3. マウス骨肉腫モデルを用いた筋萎縮の病態とリハビリテーション介入
	教授	スズ キ シンゲ ユキ 重行 Tel 719-1362 Fax 719-1362 E-mail suzuki	軟部組織機能障害学特講 軟部組織機能障害学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1. 筋ストレッチングの基礎研究と臨床応用 2. 筋肉痛に関する基礎研究 3. 排泄障害に対する介入研究
	教授	ヤマ ダ スミ オ 純生 Tel 719-1346 Fax 719-1346 E-mail yamadas	循環器機能障害療法学特講 循環器機能障害療法学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1. 二次予防(軽症脳梗塞, 心筋梗塞)のためのライフスタイル改善 2. 電気刺激による骨格筋・血管機能改善 3. 心不全リハビリテーション 4. 高齢者フィットネス
	准教授	イシ ダ カズ ト 和 人 Tel 719-1343 Fax 719-1343 E-mail ishida	リハビリテーション神経科学特講 リハビリテーション神経科学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1. 脳卒中モデル動物を用いた理学療法効果の検討 2. 抑うつモデル動物の確立と理学療法による効果の検証 3. 動物実験による認知記憶機能障害に対するリハビリ効果の検証
	准教授	リ サチヨ 佐知子 Tel 719-1348 Fax 719-1348 E-mail lee	基礎医科学実習 運動器治療評価学特講 運動器治療評価学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	基礎的研究 1. 脳梗塞後の運動機能障害(特に痙縮)の発症メカニズム 2. 脳梗塞後の運動機能回復のメカニズム 3. 脳梗塞後の運動機能障害における新たな治療法の確立

講座	職名	氏名及び連絡先	担当授業科目名	研究課題
作業療法学講座	教授	カラ シマ チ エヨ 辛島千恵子 Tel 719-1372 Fax 719-1372 E-mail karashim	発達過程作業療法学特講 発達過程作業療法学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1.発達障害児・者の作業療法の効果 2.自閉症スペクトラムの作業療法 3.特別支援教育と作業療法 4.最重度知的障害者の生活の質と作業療法 5.ADLの介入と効果
	教授	イイ タカ テン ヤ 飯高哲也 Tel 719-1367 E-mail iidaka	精神障害病態解析学特講 精神障害病態解析学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1.精神障害の病態とリハビリテーション 2.機能的MRIを用いた高次脳機能研究 3.感情の脳内機構 4.扁桃体と顔認知
	教授	チ シマ マコト 千島 亮 Tel 719-1369 Fax 719-1369 E-mail mchishi	生活支援技術学特講 生活支援技術学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1.生体信号計測と重度身体障害者支援技術 2.生活支援技術の探求と生体信号応用 3.脳神経科学と支援技術研究 4.新たな支援技術提案と作業療法プログラム策定
	教授	ホウ シヤマ シル 寶珠山 稔 Tel 719-3159 E-mail hoshiyama	高次脳機能障害特講 高次脳機能障害特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1.感覚運動連関 2.非侵襲的神経機能計測 3.高次脳機能に関する神経活動の計測
	准教授	イ トウ エ ミ 伊藤 恵美 Tel 719-1870 Fax 719-1870 E-mail emiito	生活機能発展学特講 生活機能発展学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1.身体障害者・高次脳機能障害者の作業遂行と参加 2.老年期の高次脳機能と身体機能 3.高齢者の生活機能・健康・QOL 4.地域における健康増進・予防的介入と効果
	准教授	シ ミヅ ヒデ キ 清水 英樹 Tel 719-1377 Fax 719-1377 E-mail shimizu	作業行動調整学特講 作業行動調整学特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1.作業活動の認知行動学的分析・評価 2.身体障害者の環境適応 3.障害者の自己認知 4.日常生活活動の運動学的分析
	准教授	ウエ ムラ ジュン イチ 上村 純一 Tel 719-1368 E-mail uemura	精神認知機能作業療法特講 精神認知機能作業療法特講演習 リハビリテーション療法学特別研究	1.作業療法領域における脳機能研究 2.高齢者における活動・参加の評価に関する研究 3.日常生活活動と脳機能の関連に関する研究
	講師	ホシ ノ アイ コ 星野 藍子 Tel 719-3176 E-mail hoshino	医療管理概論 リハビリテーション療法学特論 リハビリテーション研究実践セミナー 作業療法学セミナー 作業療法学特別研究	1.精神障害者の生活支援・就労支援における作業療法 2.うつ病女性の育児・家事労働支援 3.摂食障害患者に対するリハビリテーション

# 試験場案内略図

場所：名古屋大学大学院医学系研究科・医学部保健学科  
名古屋市東区大幸南1-1-20  
電話 (052) 719-1598, 1518, 1521

## ◎地下鉄利用の場合

名城線 「ナゴヤドーム前矢田」駅下車（1番出口） 徒歩7分  
「砂田橋」駅下車（1番出口） 徒歩7分

## ◎JR又は名鉄利用の場合

JR中央線 } 大曾根駅から徒歩約20分  
名鉄瀬戸線 }

市バス「砂田橋」行（名駅15） 「大幸三丁目」下車すぐ  
「大曾根」駅からゆとりーとライン（ガイドウェイバス）「ナゴヤドーム前矢田」駅下車 徒歩5分

